

特集2 / 公開ワークショップ「地方自治体でのストックマネジメントに向けて」 八千代市でのつながり座談会の実施結果について

芝浦工業大学工学部准教授
栗島 英明

こんにちは、芝浦工業大学の栗島です。本日は八千代市でのつながり座談会の実施結果についてご報告します。芝浦工業大学の私と中村先生、東京工業大学の鈴木さんと時松先生にご協力いただき、研究を進めています。

社会関係資本とは

社会関係資本には、いろいろな定義があります。その中でわれわれの研究グループでは、社会における人々の持つ人間関係（ネットワーク）と、それらを利用して得られるさまざまな効用（メリット）と定義しています。それは個人レベルにおいては、生活支援や経済的支援、さまざまな相談や精神的支えなどがあると思いますし、また地域レベルとしては失業率・犯罪率の低下、信頼感、地域の活性化などが社会関係資本の効用としてよく言われるところです。

われわれはその社会関係資本をどのように測定するかということ数年かけて研究しており、その中でリソースジェネレーター（Resource generator）という手法が非常に手軽でよいのではないかとということで採用しています。このリソースジェネレーターという手法とは、30程度の他者に協力を依頼するような項目のリスト、これをわれわれはリソースリストと呼んでいますが、このリソースリストを用意し、その協力が得られる知り合いの存在や関係性について尋ねるものです。

リソースジェネレーターという手法

例えば、まず、病気の時に看病してくれる人がいますか、という質問に対し

て、Yes・Noを聞き、次にでは看病してくれる人はどのような方ですか、ということをお聞きします。これは調査が比較的簡単で、ネットワークの効用が測りやすいということで、われわれはこの手法を採用しています。

ここで重要になってくるのは、リソースリストの30程度の他者に協力を依頼するリソースをどのように決めるかということであり、本プロジェクトではこれを住民の方々の座談会を通じて抽出しようと考え、今回の座談会をさせていただきました。

先ほどお話ししたようにリソースジェネレーターによる社会関係資本の調査を、数年来行っています。2014年度には、市原市でも調査をさせていただきました。この結果は土木学会論文集にすでに公開していますので、今日はこの詳細な内容については踏み込みませんが、そのときにはこのようなリソースリストを提示して調査をしました。このリストについては、過去のリソースジェネレーターの先行研究と共同研究者のディスカッションで決めたもので、地域住民の方は一切関わっていません。

市原市の調査で分かったこととしては、まず、リソースの種類によってさまざまな獲得先があるということです。例えば、同居の人からサポートが得られるもの、地域の中の人たちから得られるもの、地域を越えて地域の外側から得られるものなどです。

また、ほとんどのリソースにおいて獲得している人の割合は、女性の方が有意に高いこともわかっています。これは夫の存在やあるいは子育てなどで地域との繋がりがあるということが、大きな理由だと考えられます。

年代別に分析をした結果、リソースのいくつかは30代で獲得率が有意に高いことも分かっています。これも先ほど言いました配偶者の存在や子育てなどで地域との繋がりもあること、30代は非常にアクティブなため友人や知人との交流頻度も高いことなどがその理由と考えられます。

一方で、半分以上のリソースにおいて、70代の獲得率が有意に低い結果になっています。これは子供の独立や別居、あるいは配偶者や友人との死別、友

人・知人との交流頻度の低下がその原因と考えられますが、今後ますます進む高齢社会にとって大きな懸念材料と考えられます。

2040年にどのようなリソースを残したいか

また、研究自体の課題としましては、先ほどお話ししたように、リソースリストがはたして妥当かどうかということが挙げられます。本研究プロジェクト（Opossum）ではストックのマネジメントを考えているわけですが、その中で社会関係資本をどのようにマネジメントしていくかを考えるときに問題になるのが、なかなか将来予測をすることは難しいということです。それを断念しているわけではありませんが、他の資本のように未来シミュレータで描くことが難しいということで、別のマネジメント方法を考えることにしました。まずは地域住民の方々とディスカッションをして2040年にどのようなリソースを残したいかというところから考えていきます。次に、その理想とするリソースが現状ではどのくらい獲得されているのかを把握して、ギャップを見ていきます。そして、そのギャップをどのように政策的に、あるいはその他の手段を使って埋めていくかというかたちでマネジメントしていこうというやりかたを現在考えています。

その第一段階として、2040年に残したいリソースを市民座談会でディスカッションすることになり、2015年8月23日に八千代市で実施しました。世代や性別の異なる参加者でグループを作成し、ディスカッションを2時間行いました。

この世代や性別が異なる参加者でグループを作ってディスカッションというのがどこまでうまくいくか、ということがひとつの懸念材料でした。ただ、多世代共創が本プロジェクトのひとつのポイントであるため、そこも踏まえさまざまな世代の人たちにひとつのテーブルで、社会の縮図としてそこで議論をしてもらうように考えました。

グループ構成はこちらに書かれた通りで、1グループ5人で司会と書記が加わり、属性については大学生がいちばん若い世代で、30代、40代、50代、60代、

70代の方にご参加いただき、合計4グループ20名の方でディスカッションをしていただきました。

座談会のテーマは2つです。ひとつは、「これまでの人生の中で、親族や近所の人、友人・知人とのつながりの中で、みなさんにとってプラスになったこと」を聞きました。これは事前に質問内容をお知らせし、あらかじめ考えていただいたことを発表していただきました。その中で単に発表してもらうだけでなく、出てきたものに対して、似たような経験がある方を聞き、ディスカッションをしながら協調・同調を導き出していく、いわゆるグループインタビューの手法で座談会をしました。

もうひとつは「これから30年後に残したい、復活させたい、あるいは新たに築きたいつながり」です。これは、先の質問で出してもらったもの以外も含めて、今後30年後にこれを残したい、こういうつながりを復活させたいとか、新たにこのような繋がりを作りたい、ということを聞きました。これをベースにリソースリストを作ります。だいたいどのような意見が出てきたかということで、ここにいくつかの例を出しました。「おすそ分けをしてもらった」「おさがりを譲ってもらった」「子供を預かってもらう」「育児に関する情報をもらう」、こういったさまざまなリソースが出てきました。のべ162の具体的なリソースが出てきました。

この162個のリソースを見ますと、市原のリストと重複するものもあれば、市原で調査をしたときのリストからは漏れていたものもあり、特に漏れていたとしては、精神的な支えのようなものです。そのようなものが、八千代の座談会では多く提示されました。例えば、「自分のことをいつも心配してくれる、気にかけてくれる」あるいは「悩みや愚痴を聞いてもらって気が楽になった」などが、重要なリソースとして出てきました。

異なる世代・性別による座談会

また、座談会の成果として、このようリソースが出てきただけでなく、実際にこのような精神的な支えや、さまざまなサポートをどのような人から受け

たかという部分があります。もちろん家族や近所、あるいは友人のような深いつながりの中から得られたものもありますが、あまり深いつきあいではない方からのリソースもいくつか出されたことがひとつのポイントだと思えます。

いわゆる「弱い紐帯」に近いものだと思いますが、例えば、近所の子供から感謝やあいさつをされて非常に励みになった、あるいは、市の生涯学習の講習会などでしか知らないが講習会で分からないところをいろいろとサポートしてくれて非常にためになったなど、相手がどのような人かを具体的に知らなくても、いろいろなメリットを得られているということが分かりました。

また、世代・性別の異なる者でグループを作りましたが、非常に活発なディスカッションが行われました。参加者に伺ったところ、やはり異なる経験や価値観に触れる、情報を得るといことがお互いの刺激となり、非常に満足感が高いということでした。

このような異なる世代・性別による座談会のような場の構築自体が、新たな社会関係資本の蓄積、いわゆるブリッジングの関係構築に繋がることが期待されることが座談会そのものの成果といえます。

リソースリストの作成と市民へのアンケート調査の実施

座談会で得られた162のリソースをジャンル分けして、階層化しました。ここには上位の階層のみの掲載になっていますが、この下に162個のリソースが連なっています。このように整理したジャンルごとに汎用的なリソースを選定し、先ほどお見せしました市原市での調査で使したリソースリストの中に入れてたり、別のリソースを抜いたりという作業を行って、新しいリソースリストの作成を行いました。

八千代市の座談会を踏まえたリソースリストをここに示します。青字は、市原のときにも入っていて、且つ座談会でも出たリソースです。また赤字は、座談会で新しく追加されたリソースです。市原市の調査の際には入っていませんでしたが、八千代で座談会をした結果入ったものです。そして、黒字は、座談会では出なかったが、研究者としてこのようなりソースが重要だということに残し

たものです。

先ほどお話ししましたように赤のリソースは、どちらかと言うと、「自分や家族を日常的に気にかけてくれる」あるいは「自分とは違う価値観や経験を持っている」あるいは「お互いを切磋琢磨して高めあえる」などの精神的な支えに関わるリソースが多くなっています。

このリソースリストを使ったアンケート調査票を作成して、2016年1月20日から2月1日にかけて八千代市民3,000人を対象にアンケート調査を行う予定です。この3,000人の抽出は、性別や年代ごとのバランスを考慮し、市原調査の時のような性別や年代の違いを分析できるようにします。加えて、八千代市内の7地区からある程度サンプルが回収できるように配布して、地区ごとの差も見られるようにしようということで進めています。

先ほどお話ししましたように、アンケート調査の結果得られた市民のリソースリストの獲得率、30個のうちどのくらいが獲得できているのか、つまり現状と理想とのギャップを把握して、最終的にはそのギャップをどのように埋めるかを八千代市さんと一緒に考えていきたいと考えています。また、それを来年年行われる八千代市の未来ワークショップの課題のひとつとしても提案してもよいのではないかと考えています。

同じような座談会を2016年2月20日に市原市において実施する予定です。また、館山市におきましても同様に実施したいと思っています。

以上でご報告を終わりにします。ご清聴ありがとうございました。